

基地や軍備で「平和」は築けません



経ヶ岬で日米合同訓練 (24年11月)

経ヶ岬から見てくる、日米軍事一体化への道

大規模な日米合同軍事演習の際などに、経ヶ岬でも米軍・自衛隊の合同訓練が行われています。このかん「基地警備訓練」という名で、基地周辺での戦闘を想定した「第一線救護」や、生物・化学兵器や核物質、ドローン攻撃への対処など、物々しい訓練が行われてきました。「攻撃されることは無い」(近畿中部防衛局の説明)はずの基地で、日米両軍による軍事訓練が拡大しています。日米一体となった戦争訓練は中止すべきです。

いまこそ大軍拡に STOP を

2022年末、国家安全保障戦略など安保3文書が閣議決定されました。その核心は自衛隊による「反撃能力」(敵基地攻撃能力)の保有であり、安全保障政策の大転換です。5年間で43兆円の軍事費倍増も打ち出されました。さらに、防衛装備品輸出三原則の見直しによって、武器輸出が推進されようとしています。現在の石破政権もこうした大軍拡政策を引き継いでいます。

政府は中国やロシア、朝鮮などの「脅威」を言い立てています。しかしそれは、軍事費の拡大や自衛隊の強化、日米安保を正当化するための口実にすぎません。大軍拡が人々の暮らしを犠牲にし、大增税と福祉の切り捨てをもたらすことは明らかです。また、武器輸出の推進は産業構造を変化させ、軍需産業を肥え太らせます。同時に、「経済安保」と称して労働者への思想統制が厳しくなります。

今こそ日本国憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」という宣言を再確認し、大軍拡の流れを止めていきましょう。

武力で平和はつukれない

「南西諸島」での自衛隊の増強と長距離ミサイルの配備など、沖縄をはじめ全国で米軍基地・自衛隊基地の強化と戦争体制づくりが急ピッチで進んでいます。京都府南部・精華町にある陸自祝園(ほうその)駐屯地でのミサイル弾薬庫14棟の建設計画や、海自舞鶴基地に所属する自衛隊のイージス艦への米国製巡航ミサイル・トマホークの配備など、関西でも戦争準備が進められようとしています。京丹後での米軍Xバンドレーダー基地強化もそのような戦争体制づくりの一部です。

しかし、武力で平和はつukれません。アジアの人々と共に平和の内に生きるために、危険な戦争準備を止める行動が、いま求められています。



▼沖縄・辺野古での新基地建設に反対します▼

政府は沖縄県の権限を取り上げ、憲法違反の「代執行」によって辺野古埋め立てを強行しています。沖縄の人々の民意を踏みにじり、「軟弱地盤」や「活断層」の存在も無視した辺野古新基地建設はただちに中止すべきです。

★私たちはこのチラシを京都市内で配りながら、戦争準備反対を訴えています。
★基地の現地でもチラシ配布を毎月取り組んでいます。
戦争につながる基地はどこにも要りません。

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会

連絡先：京都市上京区四番町 121-5 大湾方

E-mail: kyogamisaki2013@yahoo.co.jp

TEL/FAX: 075-467-4437

ウェブサイトへはQRコードから



ご存知ですか？

京都に**米軍基地**があることを (NO. 25)

京都府の最北端にある京丹後市の「航空自衛隊経ヶ岬分屯基地」の東隣に米軍基地が造られました。ここは風光明媚で、丹後半島を中心に「海の京都」として京都府も観光に力を入れている所です。

米軍基地建設の経過

- 2013 年 2 月 日米首脳会談で京丹後市・宇川に「米軍 X バンドレーダー」を配備することを決定
- 2013 年 9 月 京都府と京丹後市による「基地受け入れ表明」
- 2014 年 5 月 基地工事着工
- 2014 年 12 月 26 日 米軍 X バンドレーダー基地の本格運用開始
- 2018 年 4 月～米軍人の宿舍建設などの二期工事。21/5 月完了



米軍基地の所在地



「穴文殊」参道の西には自衛隊基地
(3年かけて拡大強化され2018年3月完成)

自衛隊基地と米軍基地に挟まれて「穴文殊」の参道がある。



「穴文殊」参道の東は米軍基地
国道178号線に隣接する基地。手前は集落のお墓。大戦の戦没者も祀られている眼前に軍事基地が。



＜写真は清涼山「九品寺」（通称「穴文殊」）の参道＞ 参道の両側には「京都府の自然200選」に選ばれたクロマツの大木が並んでいます。地元の人たちの信仰のよりどころとして大事にされている「穴文殊」は周囲358度が軍事基地に囲まれてしまいました。基地周辺は2024年5月に土地利用規制法の「特別注視区域」に指定され、国の監視範囲に入りました。「穴文殊」へのお参りも監視されるのではないかと、住民にとって重苦しい場所になってしまいました。

この米軍基地は、米国の「ミサイル防衛システム」の一環として造られたものです。この基地は、中国や朝鮮を仮想敵国とし、それらの国から米国に向けてのミサイル発射を想定し、そのミサイルを探知し、追尾し、撃墜するための情報をキャッチする X バンドレーダーを配備した、米国を守るための米軍基地です。まさに、殺し合いの連鎖の最初を担う基地なのです。

自衛隊の「ミサイル防衛」は、米軍のそれとシステムの連動しています。それゆえ、日米軍事一体化と日本による集団的自衛権行使に向けた動きを強めるものとなっています。現に「基地警備」を口実にした宇川の米軍と自衛隊との合同軍事訓練は年ごとに強化されています。

基地の機能や役割とは裏腹に、米軍や米軍属は地域との交流に力を入れています。海岸の清掃、祭りへの参加、英会話教室、ハロウィン行事への住民招待などを通して米軍は「良き隣人」をアピールしています。

しかし、宇川の住民は「戦争になればレーダー基地が真っ先に攻撃されるのではないかと?!」「沖縄で起こった少女暴行事件のように良き隣人を装った事件が起きるのではないかと?!」「土地利用規制法の特別注視区域に指定され、住民監視体制が強化される」などへの不安と危惧の念を抱いています。